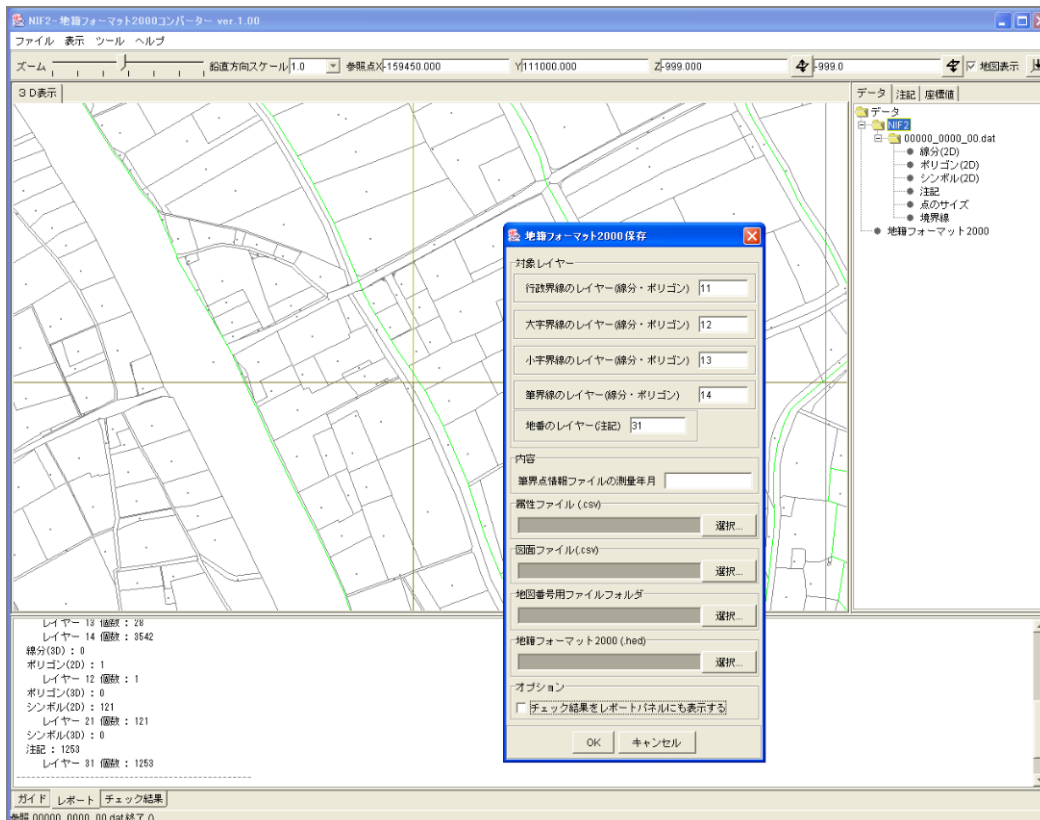
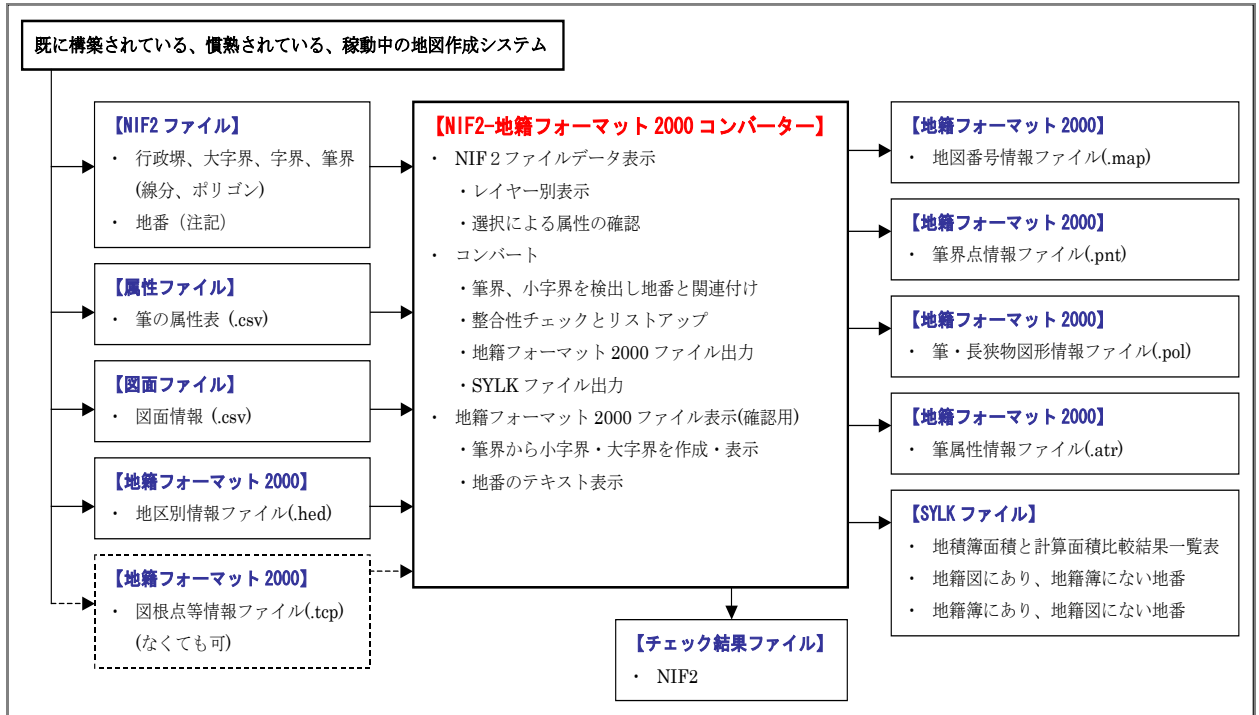


NIF2-地籍フォーマット 2000 コンバーター (バージョン 6.0.1) 操作説明書

2010/06/12
 有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

【NIF2-地籍フォーマット 2000 コンバーター】は NIGMAS の NIF2 ファイルから地籍フォーマット 2000 ファイルを作成するコンバーターです。



【インストール】

インストール説明書(GeoCoach3D-series-6-install.pdf)を参照してください。

【立ち上げ】

Windows のスタートメニューのプログラムから、[GeoCoachSystems]-[NIF2-地籍フォーマット 2000 コンバーター]で立ち上げます。

【終了】

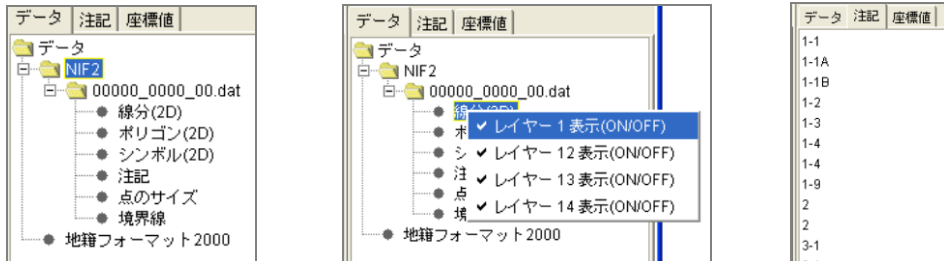
[ファイル]メニューの[終了]で、終了します。

【操作順序】

1. NIF2 ファイルを開く

[ファイル]メニューの[参照]-[NIGMAS NIF2...]を選択し、ファイル選択ダイアログで NIF2 ファイル(拡張子. dat)を選択してください。

- ・ ファイルのリードが終わると、地図を[3D 表示]パネルに表示します。地図データを囲む矩形を線で表示します。
- ・ ウィンドウ右側[データ]パネルにファイル名がついたノードを追加します。ここでレイヤー別に表示非表示、表示色、点のサイズなどが指定できます。
- ・ [注記パネル]に注記をソートして表示します。選択すると、該当する注記データを表示します。



2. コンバート

メニュー[ツール]-[地籍フォーマット 2000 保存...]で設定ダイアログを表示します。

地籍フォーマット2000 保存

対象レイヤー

行政界線のレイヤー(線分・ポリゴン) 11

大字界線のレイヤー(線分・ポリゴン) 12

小字界線のレイヤー(線分・ポリゴン) 13

筆界線のレイヤー(線分・ポリゴン) 14

地番のレイヤー(注記) 31

内容

筆界点情報ファイルの測量年月

属性ファイル(.csv) 選択...

図面ファイル(.csv) 選択...

地図番号用ファイルフォルダ 選択...

地籍フォーマット2000 (.hed) 選択...

オプション

チェック結果をレポートパネルにも表示する

OK キャンセル

- 【対象レイヤー】NIF2ファイルでそれぞれのデータが入っているレイヤーを指定してください。
- 【内容】筆界点情報ファイル(.pnt)の項目「測量年月」に出力する文字列を入力してください。
空白の場合は、ブランクになります。半角文字の場合、全角に変換して.pntに出力します。
- 【属性ファイル(.csv)】大字、字、番地、所有者などの情報が入った.csvファイルを指定してください。
フォーマットは後述。
- 【図面ファイル(.csv)】図面番号、調査年月、測図年月などの情報が入った.csvファイルを指定してください。
フォーマットは後述。
- 【地図番号用ファイルフォルダ】図郭の範囲と地番の注記を持っているNIF2ファイル群のフォルダ指定してください。すべてのファイルを開き、範囲と地番の注記、ファイル名を地図番号名として参照し、筆属性情報ファイル(.atr)の地図番号出力に使用します。ファイル名が半角でも、筆属性情報ファイルには全角で出力します。図郭の範囲はNIF2ファイル中で面積が最も大きい矩形のポリゴンを使います。筆の図形が矩形と交わり、かつ同じ地番名称の注記がある場合、その筆の地図番号名とします。NIF2ファイル群注記のレイヤーは、ダイアログで指定されたレイヤーでなくてもマッチングします。
- 【地籍フォーマット2000(.hed)】地区別情報ファイルを指定します。
同じファイル名で、筆界点情報ファイル(.pnt)と筆・長狭物図形情報ファイル(.pol)、筆属性情報ファイル(.atr)を作成します。
- 【チェック結果をレポートパネルにも表示】整合性がとれていない箇所を[チェック結果]パネルに表示しますが、これと同じ内容を[レポート]パネルにも表示します。

OK ボタンで、処理を開始し、ファイルを保存します。処理の経過を[レポート]パネルに表示します。また、整合性がとれない箇所を検出した場合、[レポート]パネルと[チェック結果]パネルにリストアップします。

出力ファイル	ファイル名など
地図番号情報ファイル(.map)	ダイアログで選択した.hedと同じ名前で作成
筆界点情報ファイル(.pnt)	ダイアログで選択した.hedと同じ名前で作成
筆・長狭物図形情報ファイル(.pol)	ダイアログで選択した.hedと同じ名前で作成
筆属性情報ファイル(.atr)	ダイアログで選択した.hedと同じ名前で作成
「地籍簿面積と計算面積比較結果一覧表(*) .slk」	ダイアログで選択した.hedと同じフォルダに作成 *には「乙1」など精度区分がはいるます
「地籍図にあり、地籍簿にない地番(*) .slk」	ダイアログで選択した.hedと同じフォルダに作成 *には大字名が入ります
「地籍簿にあり、地籍図にない地番(*) .slk」	ダイアログで選択した.hedと同じフォルダに作成 *には大字名が入ります

```

小字界線で切れている箇所はありません
小字界線で交差している箇所はありません
筆界線で切れている箇所はありません
筆界線で交差している箇所はありません
D:\landcheck\data\file\nif\34501_2002_42.map(地図番号情報ファイル)を保存しました
D:\landcheck\data\file\nif\34501_2002_42.pnt(筆界点情報ファイル)を保存しました
D:\landcheck\data\file\nif\34501_2002_42.pol(筆・長狭物情報ファイル)を保存しました
D:\landcheck\data\file\nif\34501_2002_42.atr(筆属性情報ファイル)を保存しました
D:\landcheck\data\file\nif\area.slk(面積比較表)を保存しました
D:\landcheck\data\file\nif\地籍図にあり、地籍簿にない地番(箱田).slkを保存しました
D:\landcheck\data\file\nif\地籍簿にあり、地籍図にない地番(箱田).slkを保存しました
地籍フォーマット2000保存終了

```

ガイド レポート **チェック結果**

```

筆界線で飛地あるいはドーナツ状の土地 (-159265.927,110566.914)
(1) 重複している注記文字列 [1-4]
(1) 重複している注記文字列 [1-4]
(2) 重複している注記文字列 [10]
(2) 重複している注記文字列 [10]
(3) 重複している注記文字列 [14]
(3) 重複している注記文字列 [14]
(4) 重複している注記文字列 [17-1]
(4) 重複している注記文字列 [17-1]
(5) 重複している注記文字列 [19-1]
(5) 重複している注記文字列 [19-1]

```

ガイド レポート **チェック結果**

(50) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [51-1] ○ 880(山平町) × 881(山平山)所有者コード7155133 (-159613.486, 111329.527)
(51) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [199-8] ○ 593(中ノ町) × 871(山添町)所有者コード382097 (-159626.006, 111097.674)
(52) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [200-1] ○ 593(中ノ町) × 871(山添町)所有者コード375917 (-159620.709, 111120.312)
(1) 地物の注記がない筆・長狭物 (-159402.298, 110980.780)
(2) 地物の注記がない筆・長狭物 (-159712.573, 111237.098)
(1) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159633.166, 111153.274)
(2) 複数(3個)の注記を含む筆・長狭物 (-159405.356, 111209.013)
(3) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159308.180, 111269.098)

ガイド レポート **チェック結果**

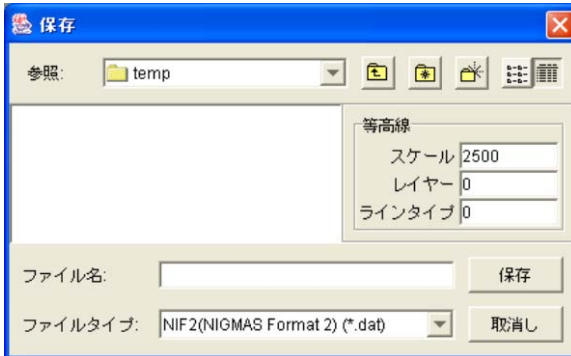
[チェック結果をレポートパネルにも表示]をチェックしておくで、[チェック結果]パネルの表示と同じ内容が[レポート]パネルに表示します。レポートパネルでは、全体あるいは選択範囲がクリップボードにコピーできます。

(1) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159633.166, 111153.274)
(2) 複数(3個)の注記を含む筆・長狭物 (-159405.356, 111209.013)
(3) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159308.180, 111269.098)
(4) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159405.356, 111209.013)
(5) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159405.356, 111209.013)
(6) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159405.356, 111209.013)
(7) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159405.356, 111209.013)
(8) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159405.356, 111209.013)
(9) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159170.535, 110853.123)

地籍フォーマット2000保存終了

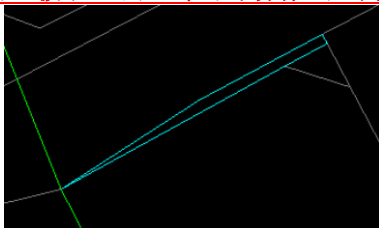
ガイド レポート **チェック結果**

[ファイル]-[チェック結果保存]で、各項目の座標をNIF2ファイルに保存できます。点の座標をシンボルで出力します。



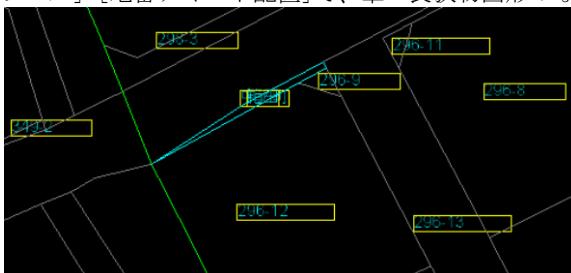
(3) 確認

[ファイル]メニューの[参照]-[地籍フォーマット 2000...]を選択し、ファイル選択ダイアログで地区別情報ファイル(拡張子.hed)を選択してください。筆界点情報ファイル(.pnt)、筆・長狭物図形情報ファイル(.pol)、図根点等情報ファイル(.tcp)を読み込んで表示します。読み込み後、筆・長狭物図形から字界線・大字界線を作成し表示しますので、**もし筆・長狭物図形の抜けがあれば、小字界線・大字界線となって現れます。**



図形の抜けが、字界線(シアン)で表示

メニュー[ツール]-[地番テキスト配置]で、筆・長狭物図形のなかに地番のテキストを表示します。



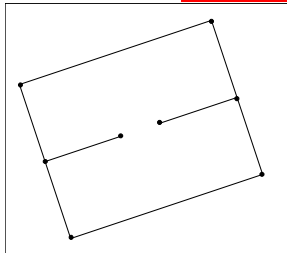
【NIF2 ファイルの内容】（入力）

コンバートを実行するための前提として NIF2 ファイルの構成に、以下のような条件があります。

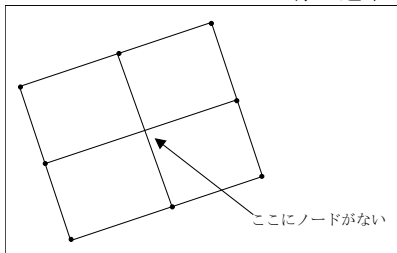
- (1) 行政区、大字界、小字界、筆界の線分とポリゴンがそれぞれ別のレイヤーに分離されていること
レイヤー番号はコンバート時のダイアログで指定できます。それぞれのレイヤーに属する線分とポリゴンデータを参照し、字界や筆界を作っていきます。

項目	NIF2 データタイプ	デフォルトのレイヤー
行政区	線分またはポリゴン	11
大字界	線分またはポリゴン	12
小字界	線分またはポリゴン	13
筆界	線分またはポリゴン	14

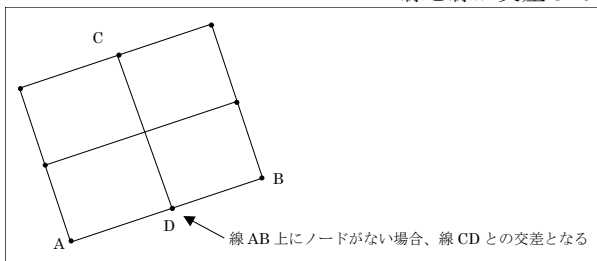
- (2) 字界と筆界の線分とポリゴンの線は切れたり重なったりしていないこと。
線分とポリゴンの線から、字界と筆界の閉領域を作っていきます。線が途中で切れていたり、重なっている場合、閉領域が作れず、**処理を中断します**。



線が途中で切れているケース（黒丸は線の端点を表します）



線と線が交差しているケース。



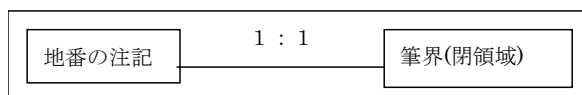
線と線が交差しているケース。

途中で切れていたり、重なりがある場合、該当する箇所をリストアップします。リストの項目選択で、該当する箇所を表示します。

(37) 小字界線で切れている箇所 (-159139.290, 111201.005)
(38) 小字界線で切れている箇所 (-159355.970, 111065.003)
(39) 小字界線で切れている箇所 (-159307.475, 111156.343)
(1) 筆界線で切れている箇所 (-159769.855, 111214.430)
(2) 筆界線で切れている箇所 (-159756.280, 111215.300)
(3) 筆界線で切れている箇所 (-159764.110, 111219.068)
ガイド レポート チェック結果

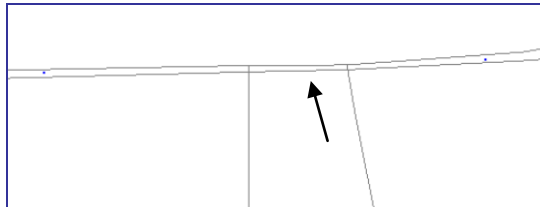
- (3) 地番が注記データで各筆界の中に必ずひとつ入っていること。

項目	NIF2 データタイプ	デフォルトのレイヤー
地番	注記	31

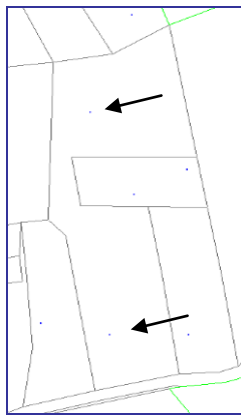


注記データの位置から、これを囲む筆界の開領域を筆・長狭物図形としてファイル(.pol)出力します。注記データが入っていない閉領域は筆・長狭物図形情報ファイル(.pol)に出力しませんが、[チェック結果]パネルにリストアップします。また複数の注記データが閉領域内に入っている場合、どちらかをファイル(.pol)に出力し、[チェック結果]パネルにリストアップします。

(1) 地物の注記がない筆・長狭物 (-159402.298, 110980.780)
(2) 地物の注記がない筆・長狭物 (-159712.573, 111237.098)
(1) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159633.166, 111153.274)
(2) 複数(3個)の注記を含む筆・長狭物 (-159405.356, 111209.013)
(3) 複数(2個)の注記を含む筆・長狭物 (-159308.180, 111269.098)
ガイド レポート チェック結果



注記データが入っていない例



注記データが複数個入っている例

もし、NIF2 ファイルに小字界の線分・ポリゴンデータが全く入っていない場合、代わりに大字界のデータを使い処理します。この場合、属性ファイルにない地番(“道”、“水”など)については、小字界が特定できないので、筆・長狭物図形情報ファイル(.pol)には、小字コードは0、小字名称はブランクを出力します。

【属性ファイルの内容】(入力)

属性ファイルから、地籍フォーマット 2000 の属性情報ファイルの内容を取得します。また、地番の注記が属する小字界を特定する処理にも使用します。

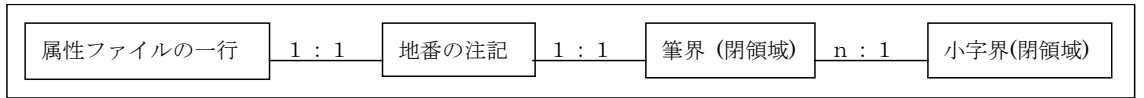
(1) 属性ファイルのフォーマット

属性ファイルは CSV 形式で以下のような列の構成になっています。最初の一行は項目名の行として、2行目からデータが入っているものとします。14列の所有者までは必ずデータが入っているものとします。15列の郵便番号からは、データがない場合も対応します。

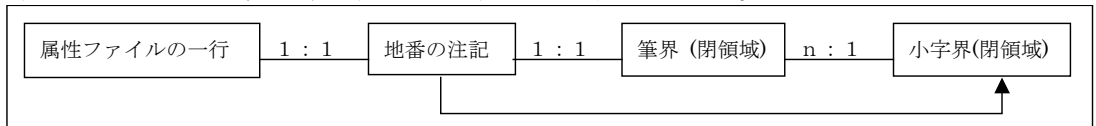
列	項目	型	プログラムからの参照
1	大字コード	整数	○
2	小字コード	整数	○
3	大字名	文字列	○
4	小字名	文字列	○
5	本番	文字列	○
6	枝番	文字列	○
7	孫番	文字列	○
8	符号	整数	
9	山耕	整数	
10	地目(税務台帳地目)	整数	○
11	地積	実数	○
12	所有者コード	文字列	○

13	所有者名カナ	文字列	○
14	所有者	文字列	○
15	郵便番号	文字列	○
16	住所	文字列	○
17	共有者情報の有無	整数	○
18	土地利用種目	整数	○
19	土地利用形態	整数	○

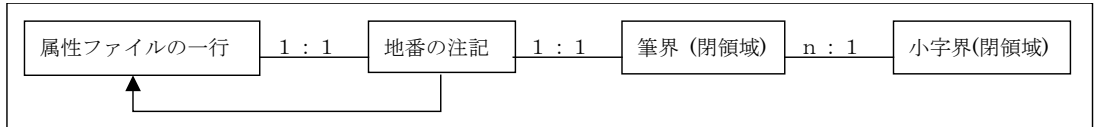
(2) 属性ファイルから、地番が属する小字界を特定します。以下に、処理の概略を説明します。



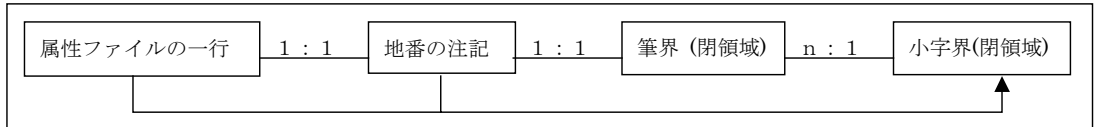
(a) 地番の注記データの座標から、地番の注記が属する小字界を特定する。



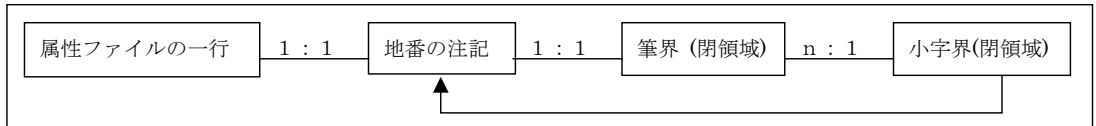
(b) 地番をキーに属性ファイル中に該当する地番を探し、大字コード、大字名、小字コード、小字名を得る。



(c) 小字界に大字コード、大字名、小字コード、小字名をセットする。



(d) 筆・長狭物図形情報ファイル保存の際には、地番の注記データの座標から小字界を特定し、小字界にセットされている大字コード、大字名、小字コード、小字名を使う。この処理により、道路などの長狭物がどの小字界に属しているかが特定できる。



(3) 地番の注記データから属性ファイルの行の特定方法

上記(2)の処理(b)で、地番の注記データの文字列と属性ファイルの本番・枝番・孫番をハイフン(-)でつないだ文字列とを比べます。地番の注記データが半角の場合は、属性ファイルも半角になっているものとします。半角と全角は別の文字としてチェックします。

属性ファイルの地番 = 本番 + ‘-’ + 枝番 + ‘-’ + 孫番

枝番、孫番が”0”の場合、文字列の連結を止めます。

例

本番	枝番	孫番	地番
123	45	6	123-45-6
123	45	A	123-45-A
123	45	0	123-45
123	0	0	123

(4) 小字界(閉領域)に小字コードを設定する方法

上記(2)の処理(c)で、地番の注記データについて、属性ファイルから小字コードが取得できたものを、注記データの座標から該当する小字界(閉領域)のコードとしてカウントし、最もカウント数が多いコードをセットします。これにより、属性ファイルでの小字界コードに違いがあった場合に対応します。違いがあった場合、リストアップします。

(43) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [1-4] ○ 605(長谷) × 880(山平町)所有者コード360786 (-159092.352, 111396.889)
(44) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [48-4] ○ 880(山平町) × 586(中陣)所有者コード388461 (-159764.802, 111213.697)
(45) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [48-5] ○ 880(山平町) × 586(中陣)所有者コード388461 (-159768.623, 111203.400)
(46) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [48-3] ○ 880(山平町) × 586(中陣)所有者コード7166135 (-159780.214, 111210.848)
(47) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [48-2] ○ 880(山平町) × 586(中陣)所有者コード7166135 (-159796.404, 111213.211)
(48) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [137] ○ 586(中陣) × 880(山平町)所有者コード382247 (-159608.527, 111255.318)
(49) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [140] ○ 586(中陣) × 880(山平町)所有者コード7267411 (-159602.834, 111281.591)
(50) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [51-1] ○ 880(山平町) × 881(山平山)所有者コード7155133 (-159613.486, 111329.527)
(51) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [199-8] ○ 593(中ノ町) × 871(山添町)所有者コード382097 (-159626.006, 111097.674)
(52) 属性ファイルでの小字コードが異なる地番 [200-1] ○ 593(中ノ町) × 871(山添町)所有者コード375917 (-159620.709, 111120.312)
ガイド レポート チェック結果

(5) 属性ファイルに該当する地番が見つからない場合

上記(2)の処理(c)で、NIF ファイルの地番が「道」や「水」などの場合など、属性ファイルに該当する地番が見つからない場合、小字界(閉領域)の特定には使用しません。

(6) 属性ファイル中に異なる小字に同じ地番があった場合

地番データとのマッチングに使用しません。また、小字界(閉領域)の特定には使用しません。リード後に該当する行を[レポート]パネルに表示します。属性ファイル中に同じ地番がないようにする必要があります。

属性.csvでの地番[37]の重なり 412行 667行
属性.csvでの地番[40]の重なり 413行 670行
属性.csvでの地番[41]の重なり 414行 671行
属性.csvでの地番[50]の重なり 677行 813行
属性.csvでの地番[52]の重なり 679行 815行
属性.csvでの地番[53]の重なり 680行 816行
属性.csv をリードしました
ガイド レポート チェック結果

【図面ファイルの内容】(入力)

図面ファイルの調査年月と測図年月を地図番号情報ファイル(.map)と属性情報ファイル(.atr)に出力します。また、精度区分を属性情報ファイル(.atr)に出力します。最初の1行は項目名で、2行目からがデータです。

列	データ項目	内容
1	図面番号	全角での図面番号
14	調査年月(1)	調査年月。
15	測図年月(1)	測図年月
16	調査年月(2)	調査年月。ブランク可。
17	測図年月(2)	測図年月。ブランク可。
18	調査年月(3)	調査年月。ブランク可。
19	測図年月(3)	測図年月。ブランク可。
21	精度区分	1 から 6 までの整数

【地図番号情報ファイル(.map)】(出力)

次のような内容で、地籍フォーマット 2000 の地図番号情報ファイル(.map)を出力します。

列	データ項目	内容
1	地図番号	NIF2 ファイル名(拡張子なし)を全角に変換
2	縮尺	地図番号にハイフンが含まれない場合、1000 地図番号にハイフンが1個含まれる場合、500 地図番号にハイフンが2個含まれる場合、250
3	図郭左下X座標	NIF2 ファイルの面積最大の矩形ポリゴンから算出
4	図郭左下Y座標	〃
5	図郭左上X座標	〃
6	図郭左上Y座標	〃
7	図郭右上X座標	〃
8	図郭右上Y座標	〃
9	図郭右下X座標	〃

10	図郭右下Y座標	＃
11	実施機関名	.hed ファイルの市区町村名
12	実施区分	1 (国土調査法に基づく地籍図)
13	地図番号の新旧区分	.hed の測地系
14	調査年月	下記説明参照
15	測図年月	下記説明参照

調査年月と測図年月は図面ファイルから取得します。地図番号をキーとして、図面ファイルの中にマッチする図面番号を探します。図面番号の中に地図番号の文字列が含まれている場合、マッチしたとみなします。

例 地図番号“P0053-4”と図面番号“神P0053-4”はマッチします

調査年月(2)、(3)などがあれば(1)、(2)、(3)の順序で出力します。図面ファイルの複数の行がマッチする場合、その行の調査年月・測図年月も地図番号情報ファイルに出力します。但し、調査年月・測図年月が全く同じ場合は除外します。図面ファイルの先頭から順に検索しますので、出力もその順序になります。マッチする行が見つからない場合、空白で出力し、その旨を[レポート]パネルに表示します。

【筆界点情報ファイル(.pnt)】(出力)

次のような内容で、地籍フォーマット 2000 の筆界点情報ファイル(.pnt)を出力します。

列	データ項目	内容
1	筆界点名称	大字コードにハイフンと1からの通し番号をつけて、全角で出力。図根点と兼用の場合、図根点名。
2	X座標	小数点以下3桁で出力
3	Y座標	小数点以下3桁で出力
4	標高	空白
5	筆界点の区分	1(図郭点)
6	標識区分	0(不明等)
7	材質区分	0(不明等)
8	測量年月	ダイアログの入力文字列。全角。入力がない場合空白。
9	測定方式	1(図解法)
10	数値取得方法	1(図上読取)
11	図根点等の兼用	図根点と兼用の場合、図根点名。それ以外は空白。

【筆・長狭物情報ファイル(.pol)】(出力)

地籍フォーマット 2000 の筆・長狭物ファイル(.pol)を出力します。NIF2 ファイルの地番の注記データから、それを囲む閉領域を計算し、ファイル出力します。従って、注記データがない場合、閉領域は出力されません。注記データがない閉領域があれば、[チェック結果]パネルにリストアップします。また、ひとつの閉領域に複数の注記データが入っている場合、どちらかの地番でひとつだけ出力します。この場合も、[チェック結果]パネルにリストアップします。

列	データ項目	内容
1	大字コード	属性ファイルでの大字コード
2	小字コード	地番の注記データが属している小字界の閉領域から判定
3	大字名称	属性ファイルでの大字名
4	小字名称	地番の注記データが属している小字界の閉領域から判定
5	地番	地番の注記データの文字列を全角に変換して出力
6	筆界点数	図形を構成する筆界点の数。最初と最後は同じ筆界点。
①	筆界点名称	筆界点名称を全角で出力。
②	線分種別	筆界線(1)、字界線(2)、大字界線(3)、市区町村界線(4)、区切線あるいは最終点(0)字界線、大字界線、市区町村界線はダイアログで指定されたレイヤの線分とポリゴンデータに重なる場合に設定する。図形の線分が重なっている場合、区切線と判定。優先順位は市区町村界線、大字界線、字界線、区切線、筆界線の順。

【筆属性情報ファイル(.atr)】(出力)

地籍フォーマット 2000 の筆属性情報ファイル(.atr)を出力します。NIF2 ファイルの地番の注記データから、地番をキーに属性ファイルの該当する行を探し、属性を取得します。ドーナツ状の筆で分割されている場合(地番の後にA,Bなど付加されている)、A,Bを除いた地番名称でマッチングします。長狭物など該当する属性がない場合、空白あるいは0を出力します。先に属性が取得できたものを出力し、次に取得できなかったものを出力します。

列	データ項目	内容
1	大字コード	属性ファイルから取得
2	小字コード	属性ファイルから取得
3	大字名称	属性ファイルから取得
4	小字名称	属性ファイルから取得
5	地番	NIF ファイルの注記データの横アスキー列または横漢字列
6	精度区分	下記の説明を参照
7	図解法・数値法区分	1 (図解法)
8	筆状態	1(筆), 5(白地), 6(長狭物)のいずれか。地番の文字列から判定する
9	一筆地調査年月	下記の説明を参照
10	一筆地測図年月	下記の説明を参照
11	地目	属性ファイルの地目から、地目コード対応表(後述)による地目。 属性ファイルに該当項目がない場合、地番の文字列から判定する。 ([仮地番と地目コード表]を参照)
12	地積	属性ファイルの地積(数値の文字列をそのまま)出力。 但し、ドーナツ状の筆で分割されている場合(地番の後に A, B など付加されている)、図形の面積を使用します。 該当データがない場合、図形の面積を小数点以下 2 桁で出力。
13	所有者コード	属性ファイルから取得
14	所有者名カナ	属性ファイルから取得
15	所有者	属性ファイルから取得
16	郵便番号	属性ファイルから取得。ハイフンを付け、全角に変換。
17	住所	属性ファイルから取得
18	共有者情報の有無	属性ファイルから取得
19	土地利用種目	属性ファイルから取得
20	土地所有形態	属性ファイルから取得
21	地図番号数	指定されたフォルダの NIF2 ファイルから計算 地図番号の数だけ、地図番号の行が続く。

調査年月と測図年月および精度区分は図面ファイルから取得します。地図番号情報ファイル(.map)と同様、地図番号の名称から、図面ファイルの行を特定します。その中でも一筆地調査年月が最も新しい行の値を採ります。筆図形が複数の図面にまたがる場合、各地図番号の中で最も一筆地調査年月が新しい行を採ります。

地図番号数が 0 の筆については、[チェック結果]パネルにリストアップします。

属性ファイルの住所などに半角が入っている場合、全角に変換して出力します。

【図根点等情報ファイル(.tcp)】(入力)

図根点等情報ファイル(.tcp)がある場合、これをリードして、筆界点情報ファイル出力で、図根点と同じ座標の筆界点について、図根点の兼用とします。

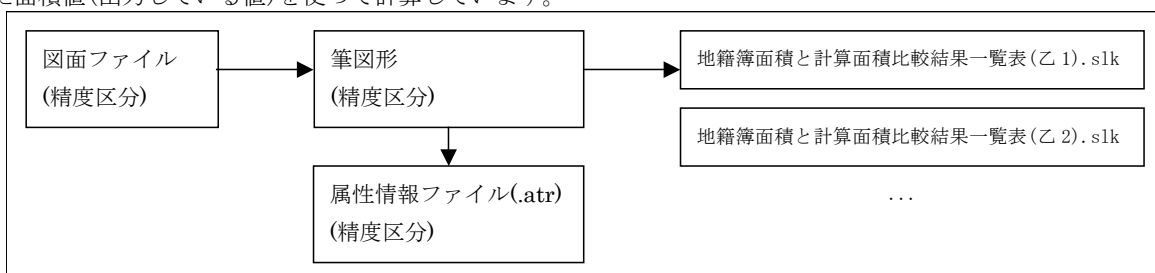
【地籍簿面積と計算面積比較結果一覧表(.slk)】(出力)

属性ファイルの地積と筆図形の面積を比較した表を精度区分別に出力します。ファイル名は「地籍簿面積と計算面積比較結果一覧表(*).slk」で*に「乙1」などの精度区分が入ります。SYLK 形式で、地区別情報ファイル(.hed)と同じフォルダに出力します。1 行目には大字名、2 行目には項目名、3 行目からデータを出力します。項目[登記簿面積]については、値の小数点以下の桁数を 2 桁あるいは 0 桁にするため、文字列で出力します。

列	項目名	内容
1	字コード	
2	地番	注記データの文字列
3	筆・長狭物	0
4	税務台帳地目	属性ファイルでの地目
5	国土庁フォーマット地目	属性ファイルでの地目に対応する国土庁フォーマット地目 (下記【地目コード対応表】参照)
6	座標計算面積	筆図形から計算した面積。小数点以下 2 桁。
7	登記簿面積	属性ファイルでの地籍。文字列で出力する。 宅地と 10 平方メートル以下の場合小数点以下 2 桁、それ以外整数。
8	連結番号	0

9	面積差	上記座標計算面積(小数点以下2桁に丸めた値)と登記簿面積の差。 小数点以下2桁。
10	** (公差)	**にはダイアログでの精度区分(「乙1」、「乙2」など)が入る。 上記座標計算面積(小数点以下2桁に丸めた値)から計算。 小数点以下2桁。
11	検査結果	面積差が公差より大きい場合、×を出力
12	公差3倍	面積差が公差の3倍より大きい場合、×を出力。
13	公差5倍	面積差が公差の5倍より大きい場合、×を出力。

属性情報ファイル(.atr)出力で計算した精度区分でそれぞれのファイルに分かれます。精度区分に従い、国土調査法施工令の別表第五(一筆地測量及び地積測定の誤差の限度)の計算式で公差を計算します。面積差および公差は、小数点以下2桁に丸めた面積値(出力している値)を使って計算しています。



【地籍図にあり、地籍簿にない地番】(出力)

地籍図にあり、地籍簿にない地番の一覧を SYLK 形式で、地区別情報ファイル(.hed)と同じフォルダに出力します。地番の注記データからポリゴンを検索し、最終的に筆・長狭物図形として出力したものについてチェックします。「道」や「水」を含む地番は対象外とし、数値とハイフン及びアルファベットで構成される地番についてチェックします。一行名に大字名を出力します。ドーナツ状の筆で分割されている場合(地番の後に A, B など付加されている)、A, B を除いた地番名称でマッチングします。地番について、ソートして出力します。

列	項目	内容
1	字コード	整数
2	地番	文字列
3	筆・長狭物区分	0
4,...	地図番号	筆が含まれる地図番号すべて

【地籍簿にあり、地籍図にない地番】(出力)

地籍簿にあり、地籍図にない地番の一覧を SYLK 形式で、地区別情報ファイル(.hed)と同じフォルダに出力します。属性ファイルのレコードについて、該当する地番の注記データを探し、見つからなかったレコードについて出力します。一行目に大字名を出力します。ドーナツ状の筆で分割されている場合(地番の後に A, B など付加されている)、A, B を除いた地番名称でマッチングします。属性ファイルでのレコード順に出力します。

列	項目	内容
1	字コード	整数
2	地番	文字列
3	筆・長狭物コード	0
4	地目	国土長フォーマットでの地目名
5	地籍	宅地と10平方メートル以下の場合小数点以下2桁、それ以外整数値を文字列で出力する
6	所有者	属性ファイルの所有者
7	所有者住所	属性ファイルの住所
8	筆状態コード	0
9	代表番地	ブランク
10	地番変更有	ブランク

【地目コード対応表】（入力）

属性データの地目（税務台帳地目）に対応する国土庁フォーマット地目のコード表です。このコンバーターをインストールしたフォルダに[`categories.csv`]としてインストールします。筆属性情報ファイル(.`atr`)、地積比較表(.`csv`)出力時に参照します。

【仮地番と地目コード表】（入力）

仮地番の名称に対応する国土庁フォーマット地目のコード表です。このコンバーターをインストールしたフォルダに[`lotnumber.csv`]としてインストールします。筆属性情報ファイル(.`atr`)の出力の際に、長狭物など属性ファイルに該当する情報がない場合、仮地番の名称に含まれる文字（「道」）などから、この表に同じ文字列が含まれている場合、対応する地目コードを出力します。

【その他】

画面表示の拡大や縮小、スクロールなどは【NIF2 三次元ビューF】の操作説明を参照してください。